

平成26年度 学校評価実施報告書

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価		学校関係者評価		
						評価日	平成27年2月5日	評価日	平成27年3月4日	
						評価者・組織	職員会議	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校 評議員による改 善に向けた支援策	
1	確かな学力	言語活動・小集団活動を積極的に取り入れた授業公開・グループ研	学び合い活動・朝読書・オープンスクールにおける授業公開・グループ研	学習確認プログラム・学習アンケート	⇒	ほとんどの教科で小集団活動・学び合い活動が展開され、学力テストの結果もかなり満足できる結果が出ているが、教科によるばらつきも見られる。家庭学習の定着もほぼ出来てきている。	各教科で学び合い学習や考える時間の意図的な検出は新着任者での実施率が低いので、年度当初にしっかり確認する。	⇒	丁寧な指導や教職員の組織的な取り組みは大いに評価できるし、生徒も授業は分かりやすいと感じているのに、保護者の評価が低いのは、保護者の学校教育への関わり方が弱いからでは無いか	
		家庭学習の習慣化	学年・教科による系統的な課題の提示・確プロの予習、復習シートの活用	朝学活時に提出状況チェック						未提出者は以前あるものの、かなり減少し、定着が見られる
		進路保障	テスト前学習会・ふりスタ・夏季学力補充・キャリア教育・10月三者面談	進路希望調査・教育相談・土曜学習						3年生中心に土曜学習の参加率が大幅に上昇。英検受験者が全生
2	豊かな心	規範意識の向上と挨拶の習慣化	生徒会主催の生活点検・朝の挨拶運動	保護者評価アンケート 生徒評価アンケート	⇒	生徒会・PTAが中心となった挨拶運動の成果が出てきている。「おもてなし集会」をきっかけに自尊感情やコミュニケーション能力の醸成が前進した。	生徒会を中心とした挨拶運動により多くの生徒を巻き込み、集会の企画・運営を今異常に推進していく。今後も「おもてなし集会」を継続させていく他、生徒に成功体験をさせる場を意図的に設定していく	⇒	生徒が自分に自信が持てないという回答が多いのが気になる。自信が持てないの対岸に「自尊感情」の育成があるので、今後もその視点での教育活動を行っていただきたい。	
		人を思いやる心	生徒会による全校集会の企画と運営・地域活動の活性化	保護者評価アンケート 生徒評価アンケート						学校の雰囲気が良いと回答した生徒が95%
		自尊感情の育成	集会における生徒の発表の場を多く設ける・「心からすまいるおもてなし	保護者評価アンケート 生徒評価アンケート						自信が持てるに回答した人が65%でI期より13ポイント増加
3	健やかな体	保健教育の充実・基礎的生活習慣の確立	保健だよりの発行・生活習慣確立の呼びかけ	保健生活チェックカード	⇒	生徒会が呼びかけている換気活動や、職員室の環境維持の努力で、本年度はほとんど流感などの流行期に、欠席者を出すことなく乗り越えることが出来た。	学年が上がるにつれて生活リズムが夜型になる事については継続指導。防災教育の見直しが今後必要。	⇒	防災教育では小学校で引き渡し訓練なども行うようになってきており、今後小中が連携した防災教育も考えていかなければならない	
		安全・防災教育	安全教室・防煙教室・薬物乱用防止教室などの開催	各種教室後の生徒感想アンケート						喫煙の恐ろしさや、自転車の正しい乗り方や新しい交通ルールが分
4	独自の取組	伝統文化教育	各種伝統文化体験・「心からすまいるおもてなし集会」	保護者評価アンケート・おもてなし集会時のアンケート	⇒	伝統文化教育も、少人数を活かした教育も、大きく支持されている。生徒の伝統文化に関する意識が学年が上がるにつれ変化している	伝統文化教育を研究指定が終わり、費用の面の裏付けが弱くなっても、内容を精選し、普遍的な教育的ツールにしていくための工夫をしていく必要がある	⇒	伝統文化教育に対する生徒の考え方の変化が大変興味深い。今後もぜひ取り組みを継続させて頂きたい。	
		少人数を活かした教育	縦割り集団の活用・少人数クラスの編成	保護者評価アンケート 生徒評価アンケート						地域の伝統文化の活用が出来ているは98%でI期より20ポイント増 少人数を活かした取り組みが出来ているは93%でI期より20ポイン

4 総括・次年度の課題

<p>小規模校の良さが全る所に現れ、生徒会が全校で行うミニ集会を何度か開催するなど、落ち着いた雰囲気の中、「チーム鳥丸」という意識が育ちつつある。グループ活動を積極的に取り入れ、教え合い学習を通して、言語活動・コミュニケーション能力の育成が全教科で意識的に図られるなど、学力向上の取組により、学習確認プログラムなどの結果は、全市を大きく上回る時もある。ただ教科によるバラツキが見られ、グループ学習を全く取り入れられていない教科や、本来の実力を出し切れているとは言えない教科も見られる。特に新着任者への意思統一が不完全であったので、来年度は改善していきたい。</p> <p>養護施設生徒を中心に、まだまだ生活習慣の乱れが見られ、粘り強い指導・支援が不可欠である。</p> <p>伝統文化教育の方向性を全教職員が共通理解し、教科の年間指導計画の中に伝統文化をツールとして自然に位置づけていくことができた。生徒に地域の主体者となり、地域に発信していく力をつけること、自己有用感を高め、いく上で大きな力となる伝統文化教育を、研究指定後も継続させていけるよう、内容の精選と有機的結合を課題としていきたい。</p>
